■2012 年 7 月 22 日　東京プレスクラブ

## 原発作業員の線量偽装あるある

「マジで。そんな記事でてるのけ」
記者の取材電話で被曝線量偽装のニュースを知った作業員がけっこういた。福島の人は、福島民報か民友の購読率が高く、たまたま記者の知り合いの作業員には朝日新聞を読んでいる人がいなかったからだ。

……

□2012 年 7 月 21 日　朝日新聞

◇線量計に鉛板、東電下請けが指示　原発作業で被曝偽装
東京電力が発注した福島第 1 原発の復旧工事で、下請け会社の役員が昨年 12 月、厚さ数ミリの鉛のカバーで放射線の線量計を覆うよう作業員に指示していたことがわかった。法令で上限が決まっている作業員の被曝線量を少なく見せかける偽装工作とみられる。朝日新聞の取材に、複数の作業員が鉛カバーを装着して作業したことを認めた。役員は指示したことも装着したことも否定している。厚生労働省は、労働安全衛生法に違反する疑いがあるとして調査を始めた。
朝日新聞は、福島県の中堅建設会社である下請け会社「ビルドアップ」の役員(54) が偽装工作したことを示す録音記録を入手した。昨年 12 月 2 日夜、作業員の宿舎だった福島県いわき市の旅館で、役員とのやりとりを作業員が携帯電話で録音していた。
役員はその前日、作業チーム約 10 人に対し、胸ポケットに入るほどの大きさの線量計「APD」を鉛カバーで覆うよう指示した。(後略)

□2012 年 7 月 22 日　朝日新聞

◇鉛板、原発構内に投棄させる　役員が指示　被曝隠し問題
東京電力福島第 1 原発の復旧工事を下請けしたビルドアップ (福島県) の役員(54) が、作業員の被曝線量を少なく見せるために線量計「APD」を鉛カバーで覆って作業させた後、原発構内に鉛カバーをすべて投棄させていたことがわかった。厚生労働省は、本当の被曝線量を調べるには現物の鉛カバーで放射線の遮蔽効果を確かめる必要があるとして回収を目指す。
ビルド社の役員が 21 日、和田孝社長に説明したところによると、役員は昨年 11 月、工事現場である原発 1 号機西側の高台を下見した際に、高い線量を感知して APD の警報音が鳴ったのに驚き、実際の工事では鉛カバーで APD を覆うことを決意。作業員 9 人が約 3 時間、鉛カバーを着けて資材を運ぶなどの作業をしたとしている。
作業員の一人によると、現場の線量は思ったほど高くなかったため、鉛カバーは 1 回装着した後は使うのをやめ、原発構内にあるビルド社専用の車の中に隠していた。その後、役員が「ばれたらおおごとだから捨てよう」と投棄を指示したという。
この作業員は「原発構内の草むらに捨てた。構内は放射線量が高いため、見つかりにくいと思った」と朝日新聞の取材に話した。

……

東京電力福島第 1 原発の復旧作業を請け負う協力会社「ビルドアップ」が昨年末、作業員への外部被曝量をはかるサーベイメーターに鉛板を巻いて、線量を下げる工作をするように部下に働きかけていた、との報道が 7 月 21 日の朝日新聞に掲載されネット上でも大きな話題となった。

ビルドアップは、震災以前は浪江町にあった会社で、長らく IHI の下請けに入っていた。現在も作業員を 50 人ほど第 1 原発に送り込んでいる。ちなみに会社オーナーの趣味はサーフィン。浪江町はサーフィンのメッカである請戸港を擁する。
「ビルドアップかー。いけいけだからなーあそこ。でもぶっちゃけどこも同じような感じだよ」
と作業員の一人はいう。

**ずさんな線量管理**

線量管理がずさんだということは原発事故直後から現場作業員たちの間で常識となっていたようだ。

ここでは記者がきいた、作業員たちの間で知られている「線量ごまかしあるある」を紹介しよう。

・APD・警報付き線量計 (以下 APD) を裏表逆にする（ディスプレイを体の側に向けて装着しないと正確な線量は計測できない）。

・APD は 5〜6 人で構成されている班の中の一人がまとめてもらいにいくため、受け取ったビニール袋に入れたまま放置して作業すれば線量が出ない。

・サーベイする際、測定レンジの切り替えスイッチで表示の値の位を上げる。測定レンジを大きくすると針の振れ幅が小さくなる。このことを利用して針が振れていないように見せかける。

・サーベイする際、センサー部分をすばやく動かして線量が検知されなかったかのようにみせかけている。放射線を検知するセンサーが反応するまでにタイムラグがあることを利用する。

・J ビレッジの敷地の線量が高いため、サーベイしても正確な線量が出ない（現在は鉄板で遮蔽したエリアができていて、そこにホールボディーカウンタを設置している）。

・構内の喫煙所、トイレから遠い作業所ではみな思い思いの場所でマスクをとってタバコを吸い、かつ用を足している。帰りにサーベイに引っかかる持ち物は没収されるが、線量の高いエリアで大便をして、下着姿になったため、下着がサーベイにひっかかって没収された作業員がいる。

・APD は一度設定された線量を超えた値を計測すると音が鳴る。一度鳴らしてしまうと作業後に線量管理セクションの係員に止めてもらわないと止まらない。鳴らすとうるさくいやがる作業員が多い。線量が超えそうな場所で作業するときは、APD を体から外してどこかに置いたり、仲間に預けたりして作業する。

・2011 年 3 月 12 日から 4 月半ば頃までは、線量管理なしで APD を携帯せずに作業させていた。放射線管理手帳を持たない作業員も現場に入っていた。APD は、電源がなかったために充電ができなかったことと、数が足りなかったため支給されなかった。そのため、この間に作業に入った作業員の外部被曝線量はゼロでカウントされている。

ちなみに線量偽装とは関係ないが、昨年は 4 号機山側で猫を飼っていた。

厚生労働省は、鉛のカバーの一件に対して労働安全衛生法に違反する疑いがあるとして調査を進めているとのことだが、被曝線量偽装の問題についてどこまで斬り込めるだろうか。

[福島プレスクラブ]